

南米小型サル舎「さるっこの森」 リニューアルへの道

主査 三浦 匡哉



南米小型サル舎 完成イメージ図



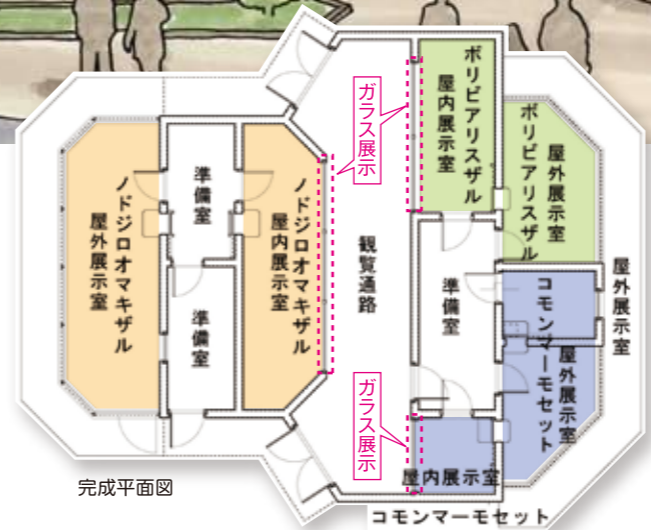
コモンマーモセット

2011年3月に、新世界サル舎が南米小型サル舎「さるっこの森」としてリニューアルされます！これを例に、動物舎をリニューアルしていく手順をご紹介します。

※新世界サルとは、アフリカやアジアに生息する旧世界サルに対して、中南米に生息するサルの総称です。



ポリビリスサル



完成平面図

コモンマーモセット

1 現在の新世界サル舎について

現在の建物は1989年3月に完成し、現在飼育しているノドジロオマキザル、ポリビリスサル、コモンマーモセット、ワタボウシパンシエをはじめ、これまでにフサオマキザルやアカハナグマなどを展示してきました。

最近では建物の老朽化が進み、衛生害獣であるネズミが、獣舎の中を自由に走り回る状態となってしまったため、早急な建て替えが必要となりました。

2 計画立案(2009年10月～)

設計図を書く前に、園長の指示の下、飼育展示担当職員の中から、南米小型サルの担当者、他種類のサルの担当者、獣医師等で構成するチームを作り、以下の項目について協議しました。

(1)候補地

南米原産の小型サルは寒さに弱いため、園内でも日当たりの良い場所を選びました。何カ所か候補が挙がりましたが、最終的にアライグマ舎の横に決まりました。

(2)動物種

現在は4種類のサルを展示していますが、新しい建物では展示する動物を絞り、これまで長い間、順調に繁殖が続いているノドジロオマキザル(国内では当園を含めて3園のみ飼育)、人気の高いポリビリスサル、またコモンマーモセットの繁殖基地を目指そうということで、この3種としました。

(3)展示方法

夜の動物園や冬季開園を考え、お客様のシェルター(休憩所)を兼ねた屋内観覧室を設けることにしました。

また、樹上生活種としての素早い動きと、手足の使い方等の特徴を、季節を問わず最大限見せられる行動展示を目標にしました。

これらの内容を踏まえて、チームのメンバーがそれぞれ平面図案を作り、集約していききました。(下記図参照)



飼育員による当初案

3 本設計(2009年12月～)

2009年12月に設計業者が決まり、市の建築課職員も交えて、年明けから本格的に打合せが始まりました。動物園が考える基本的なコンセプトや以下の点等を軸に進めました。

- 動物の屋内外展示場と室内観覧通路の大きさや配置(バリアフリー対応)
- 日当たりを考慮した施設の構造
- お客様の導線の確保(スムーズで親切な誘導)
- 暖房設備や暖房効率(雪国のため非常に重要な事項)
- 動物用予備スペース(繁殖に力を入れるため)

打合せに基づいて、設計業者がたたき台となる図案を提示し、それに対して、動物園からの要望を出し、これを繰り返すことでだんだんと図面はそれらしいものになっていきました。動物園からの要望は微に入り、細に入り、動物には快適に、担当者には使い勝手がよく、お客様からは見やすい施設を目指して、図面のやりとりをかなりの回数行いました。

4 動物を飼う施設ならではの特徵

普通の家を作るのと違い、動物を飼う施設ならではの点があるといえます。

●動物の脱出防止

飼っている動物に逃げられては展示ができませんし、担当者やお客様に危害が及ぶこともあります。そのため、動物が逃げ出さないように十分安全な施設でなければなりません。そのために扉を二重にするなどしています。また、できるだけ死角を無くし、動物の動きがちゃんと把握できるような間取りでなければなりません。

●動物種による違い

動物種によって、気を遣うところも違ってきます。例えば、猛獣のような危険な動物は、まず第一に頑丈な施設でなければなりません。今回の小型のサルは手先が器用なので、ちょっとしたネジなどは簡単に外されてしまいます。また体が小さいので、ちょっとした隙間があれば、そこから逃げ出してしまおうとも考えられます。

●展示

動物園ですから、動物をいかにお見せするかという点も重要です。金網の目が大きければ動物が逃げたり、逆に小さすぎると動物が見つらなくなります。また金網を使わず、ガラス展示をする場合、道具を使うサルにガラスを割られないようにする必要があります。

●その他

大森山動物園は海に近い降雪地にあり、冬の間は日本海からの風が強いため、フェンスなどの金物には積雪や潮風による影響があります。また小型のサルはちょっとした低温が命に関わるがあるので、寒さ対策も重要です。

5 工事開始(2010年12月～)

工事が本格的に始まったのにあわせて、動物をどう展示するか、模型を作って、イメージを膨らませていきます。

図面の段階でいろいろと打合せをしてきたつもりでしたが、模型を見ながら作業を進めていくうちに足りない部分があるのと見えてきたので、現場の建築業者、市の建築課職員と細かい部分を詰めていきました。

展示と同時に解説板などの作成も重要です。「南米小型サル」を多くの人に知っていただくために、様々な情報を集め、理解しやすい内容になるよう心がけています。また、解説板作成の一環として、「雪の動物園」開園中に建物の愛称を募集しました。たくさんのご応募をいただき、審査の結果「さるっこの森」に決定しました。

この原稿を書いている時点で、建物の基礎部分までできています。3月19日の開園にあわせて順調に進んでいるところです。



展示環境整備を検討するための飼育員手作りの模型